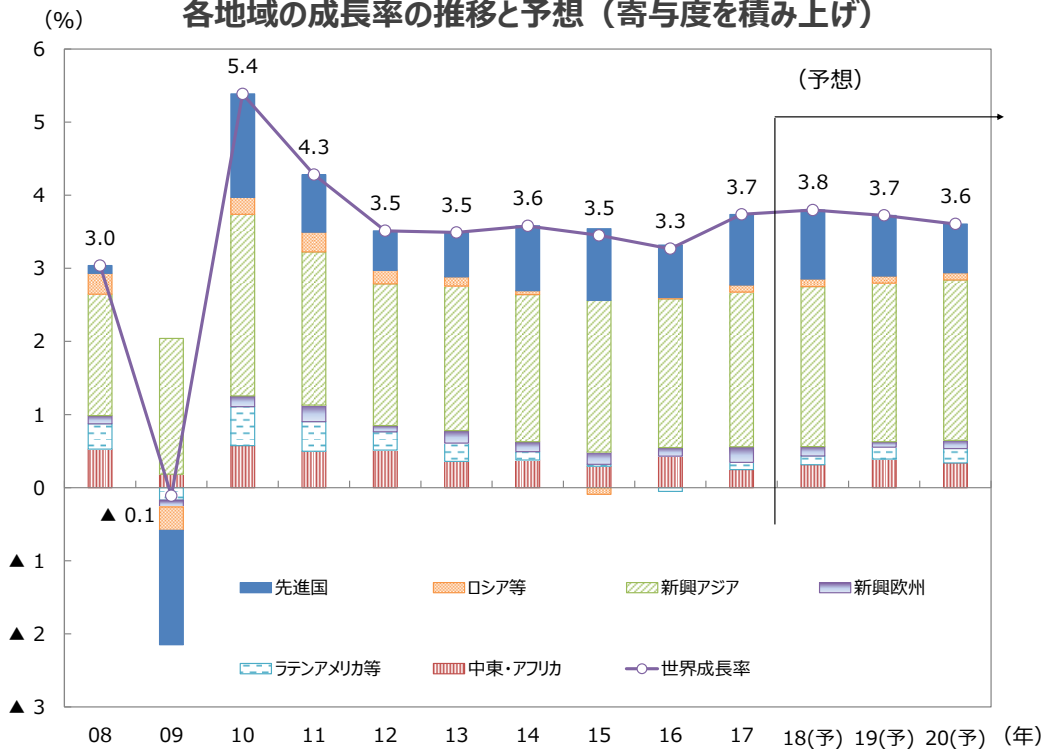


今日のトピック 世界経済の成長見通し（2018年12月） 2019年以降の成長率は緩やかな減速

- 世界経済の成長率は、2016年をボトムに2018年にかけて加速したとみられます。しかし、2019～2020年は、財政効果が薄れる米国と貿易摩擦の影響を受ける中国が共に潜在成長率近辺にスローダウンすることを受けて、世界経済は減速方向に転じる見込みです。
- 2019年以降の減速は極めて緩やかなものになるとみられます。先進国のインフレが安定して推移すること、主要国で財政が景気をサポートすること、2018年にかけて政治的混乱などで減速した一部新興国経済が回復してくること、などが要因です。
- 米中貿易摩擦の行方が最大の注目点です。米中首脳会談を受けて、知的財産の保護などを巡り協議が行われます。決裂すれば、世界貿易に悪影響を与え、成長率が一段と下振れるリスクがあります。

【世界経済の成長見通し（2018年12月）】
各地域の成長率の推移と予想（寄与度を積み上げ）



(注1) データは2008年～2020年。2018年以降は三井住友アセットマネジメント予想。
地域区分は、国際通貨基金（IMF）を参考に三井住友アセットマネジメントにて分類。
(注2) 世界成長率は、各地域の成長率の合計（四捨五入のうえ小数点第一位までを表記）。
(出所) 各国・地域データを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2018年11月30日 世界の「投信マネー」
2018年10月10日 IMFの世界経済見通しは2年ぶりの下方修正（2018年10月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的財産権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。